

IR 説明会「2016 年度決算実績と中期経営計画の進捗状況」  
(2017 年 5 月 23 日開催) 質疑応答の概要

(鉄鋼事業に関して)

**Q1) 今年度の鉄鋼事業における増益計画について、数量、価格等、要因別に説明して頂きたい。**

A1) 増益の中身ですが、まず前年同様に海外子会社の貢献が見込めます。海外の子会社は、3 カ月ズレでの連結となりますが、スタートの 3 カ月の実績をみても、今のところ極めて順調に推移しています。

価格については、前年度からの浸透差の効果が考えられます。

数量については、今年度の販売数量の予想は 1,400 万トンと、前年度実績である 1,389 万トンからの増加を見込んでいます。

当社のセンシティビティについては、単価については、±1,000 円/トンの増減で約±2.6 億円程度、数量に関しては、±10 万トンの増減で約 1.6 億円程度と試算しており、申しあげた海外子会社の貢献、販売単価の浸透差、販売数量増加効果を合わせたものが、主な増益要因となってきます。

**Q2) 中国について、春先から流通在庫の調整が話題になっていると思うが、この在庫調整はほぼ完了したと思っていいのか。また、まだ完了していないという事であれば、いつ完了の目途がつくのか可能ならば説明頂きたい。**

A2) 足元では一時の市場価格の下落は止まっており、在庫調整にも少し目途はついてきているのでは、と考えています。中国における市場価格の上下動は激しく、この背景は、思惑で買い、売れなくなったら資金繰りの問題から手放す側面があるからと思われるのですが、この動きが、少し落ち着いてきたことがあります。加えて、今年の 10 月に中国共産党大会を控えていますので、景気の下支え効果も見込まれますことから、需要面において中国鉄鋼市場が底を抜けるような事はないと見ています。

(三井物産との提携に関して)

**Q3) 三井物産との提携における今後のシナジー効果について、可能ならば定量的な解説を頂きたい。**

A3) 三井物産との提携によるシナジー効果については、現在両社で詰めている最中であり、詳細な数値は申しあげることが出来ません。イメージ的には先ほど、当社が合併してからの統合シナジーが今年度で約 30 億円あるとご説明しましたが、今回は、こ

の数字プラスアルファを狙って行きたいと考えています。

具体的には、システム、拠点の統合や海外加工拠点の共同使用など、色々なテーマが考えられます。

以 上